

外国籍の人

「実際には、どのように手助けをすれば良いのか」 判らない方も多いかと思いますのでよくあるシーン別の接し方を、いくつかご紹介します。

●外国籍住民

国際化の進展にともなって交流が進む一方、言語や文化、習慣、価値観等の相互理解が不十分である事が原因で、外国人に対する偏見や差別などの人権問題が生じています。

国籍や文化などの違いを乗り越えて、お互いに個性を尊重しあい、助け合っていける、住みよい社会をつくりましょう。

日常の挨拶など、積極的なコミュニケーションをとりましょう。

お年寄り

今後日本は、ますます高齢化が進み、2015年には4人に1人が65歳以上になる見込みです。

人は年をとるとともに、身体のいろいろな機能が低下していき、複合的な障害を持つ人が増えてきます。

例)

1.視力の低下

40歳代から老眼がはじまり、近くの字や小さい字が読みにくくなります。

白内障(水晶体の濁り)の人が多くなり、色の区別が難しくなったり、物の凹凸が見えにくい明るい場所でないと見つらいといった状況になります。

2.聴力の低下

50歳過ぎくらいから、高い音が聞き取りにくくなります。

3.体力の低下

長時間立っていることが困難になったり、ひざが高くあがらないため、ちょっとした段でもつまづきやすくなります。

会話をするとき

聴力が弱っている人と話をときは、大きく口を開いて、ゆっくり、はっきり話しかけてください。

電車やバスの中で

電車やバスの中で立っているお年寄りを見かけたら、ひと声掛けて席を譲りましょう。